

# 尾原ダム 完成



## ダム湖を活用した交流開始

さくらおろち湖(尾原ダム湖)では、日本ボート協会公認のボートコースが島根県で整備され、高校総体予選などのボート競技大会や競技団体の練習などに利用されています。

また、雲南市木次町で桜の季節に開催されている「お花見レガッタ」も今年から「さくらおろち湖」に会場を移し、5月13日(日)には各地から多くのチームが参加され、熱戦が繰り広げられました。



## H24 6/3 竣工式を開催しました

平成24年6月3日(日)、尾原ダムの竣工式を開催しました。これで、上・中・下流で分担して斐伊川流域を水害から守る計画のうち、上流のダム2つ(志津見ダム・尾原ダム)が完成しました。



5/18~20

昭和47年7月水害から40年 斐伊川流域の治水を考える集い(尾原ダム)

平成24年5月18~20日、尾原ダムにおいて「斐伊川流域の治水を考える集い」を開催しました。「ダム湖巡視体験」「ダム見学会」では、ダム建設に伴い移転された方々から「今でもよくダム周辺の思い出の場所を訪れる」「懐かしいふるさとを思い出します」等のお話を伺いました。



ダム湖巡視体験(松江堀川遊覧船)



記念撮影の様子

## S47水害から40年 水害企画展(パネル展)を実施しています

昭和47年水害の際の被害状況や、救助・水防活動などの写真を多数展示します。

松江市	島根県庁	7/2~7/31	松江市殿町1	
	松江市役所	7/2~7/6	松江市末次町86	
	島根県立図書館	7/2~7/31	松江市内中原町52	
	島根県松江合同庁舎	7/2~7/31	松江市東津田町1741-1	
	松江市市民活動センター(スティックビル)	7/10~7/13・7/24~7/27	松江市白湯本町43	
	島根県民会館	7/16~7/23	松江市殿町158	
出雲市	大橋川コミュニティセンター	7/2~7/31	松江市殿町383	
	出雲市役所	7/2~7/31	出雲市今市町70	
	出雲市平田支所	7/2~7/31	出雲市平田町951-1	
	出雲市佐田支所	7/2~7/31	出雲市佐田町反辺1747-6	
	出雲市斐川支所	7/2~7/31	出雲市斐川町莊原2172	
	島根県出雲合同庁舎	7/2~7/31	出雲市大津町1139	
雲南市	雲南市木次経済文化会館チェリヴァホール	7/2~7/8	雲南市木次町里方55	
	三刀屋総合センター	7/10~7/13	雲南市三刀屋町三刀屋144-1	
	大東交流センター	7/18~7/22	雲南市大東町大東1031	
	加茂図書館	7/24~7/31	雲南市加茂町加茂中972-5	
	道の駅おろちの里	7/2~7/31	雲南市木次町北原1603	
	奥出雲町	三成中央公民館(カルチャープラザ仁多)	7/2~7/31	仁多郡奥出雲町三成436
横田公民館(横田コミュニティセンター)		7/2~7/31	仁多郡奥出雲町横田1037	
飯南町		赤名農村環境改善センター	7/2~7/31	飯石郡飯南町下赤名862
		来島支所	7/2~7/31	飯石郡飯南町野萱311-6
		さつき会館	7/2~7/31	飯石郡飯南町八神117-1
		保健福祉センター	7/2~7/31	飯石郡飯南町頓原2064

# 大橋川コミュニティセンター

[休館日] 土日祝祭日・年末年始 [開館時間] 9:30~16:00 [駐車場] なし  
〒690-0887 松江市殿町383番地  
TEL(0852)28-3621 FAX(0852)28-3623

E-mail : info@comisen.jp  
ホームページ: http://www.comisen.jp/



\*大橋川コミュニティセンターは、松江市と島根県、国土交通省出雲河川事務所が共同して管理・運営をしています。



# 大橋川通信

昭和47年7月水害(松江駅前通り)

Vol.38  
2012.07

発行/大橋川コミュニティセンター

## 大橋川改修情報紙

### 昭和47年水害から40年 ~記憶の風化を防ぐ~

本年は、斐伊川流域を襲った昭和47年7月水害から40年目の年です。戦後最大の被害となったこの洪水の記録を振り返るとともに治水事業の必要性について改めてご紹介します。

流域で、浸水面積約70km<sup>2</sup>、死者12名、浸水家屋約25,000戸という甚大な被害をもたらした昭和47年水害の記憶を風化させることなく、防災や減災のための取り組みにつなげていきたいと考えています。

### 流域で甚大な被害

昭和47年の水害では、12名の尊い人命が失われ、多くの方が長期間にわたる避難生活を余儀なくされました。各地で水道、電気等のライフラインが供給を停止し、医療施設の入院患者をはじめとする多くの住民が孤立しました。

また、県・市の庁舎の浸水による防災機能の低下等の被害が発生しました。

### 生活形態の変化に伴うリスクの増加

地盤が低く水はけの悪い松江市街地では、ひとたび水害が発生すると浸水が長期化します。昭和47年の水害では浸水が約1週間続きました。

現在では、昭和47年当時よりも避難の際に援護を必要とする方の人口が増えたことや、車社会になったことで避難時に渋滞が予想されること(避難を迅速に行うことが難しくなっていること)、地下の施設が浸水することによって命の危険にさらされる可能性が増えたことなど、社会情勢等の変化に伴い、水害を防ぐ必要性は昭和47年当時よりも高まっています。

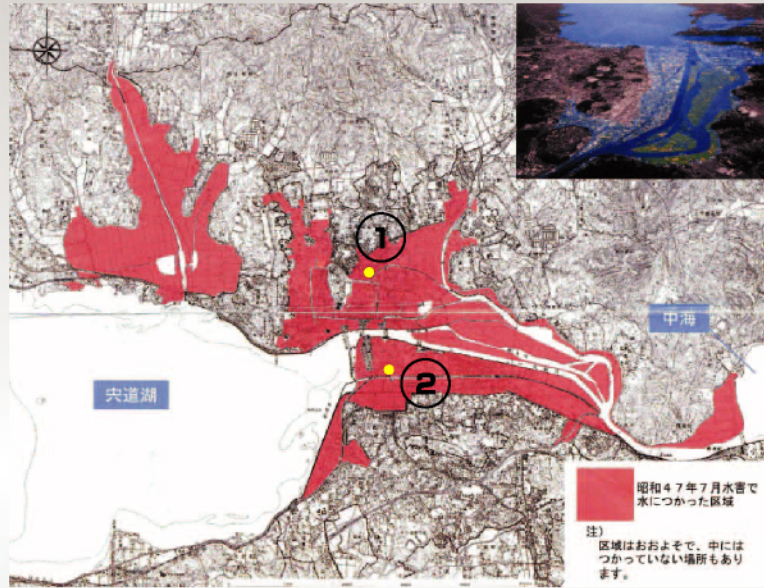
### ハード・ソフト両面からの対策

今後は、大橋川改修をはじめとするハード対策とともに、情報を素早く提供できる体制を整備し、水害の発生を想定した訓練を実施するなど、水害から生命・財産を守り、安全・安心な暮らしができるようなソフト対策にも各自治体や地元の方々とともに取り組んでいきたいと考えています。

# S47 水害 40年

忘れてはならない教訓 次代に引き継ごう  
～2012年は昭和47年水害から40年～

当時のこと 覚えていますか？  
水害のこと ご存知でしたか？



昭和47年7月9日～13日にかけて中国地方各地を襲った大雨により、松江市街地は約1週間浸水し、市民生活に大きな影響を及ぼしました。地盤の低い松江市街地を水害から守るには、宍道湖や大橋川の水位を下げるための根本的な対策が必要です。



① 北堀町



② 朝日町



避難所生活(島根県民会館)



救援物資(松江市役所玄関)



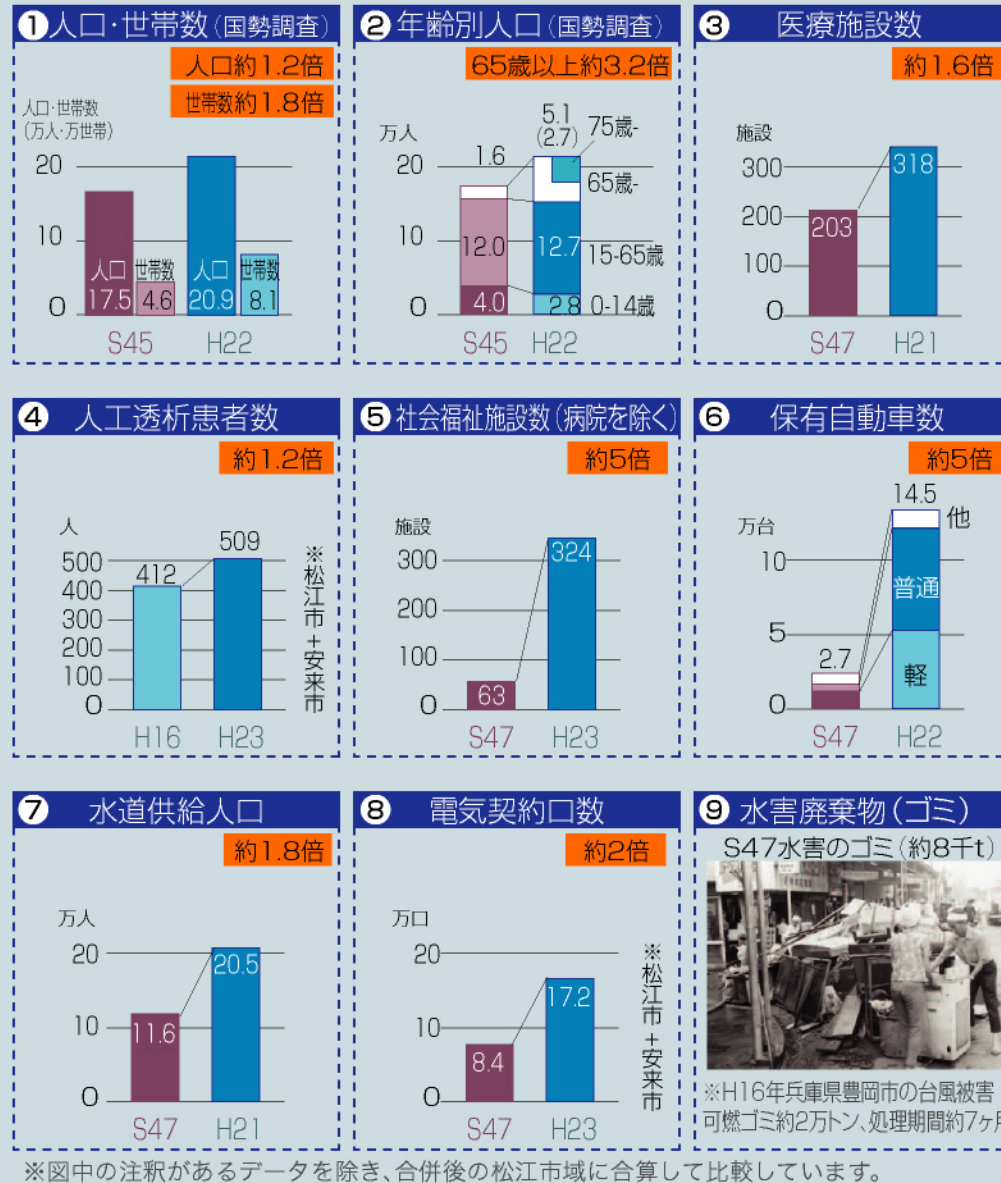
自衛隊災害派遣(米子自衛隊第8普通科連隊)

S47水害企画展開催中

詳細は裏面参照

## 水害に伴う影響は、40年前よりも格段に増大

### 洪水被害に関するデータ



昭和47年の水害から40年が経過して、高齢化の進展や自動車の普及、インフラの充実など社会情勢に様々な変化がありました。これらの変化によって、水害に伴う影響は40年前よりも格段に増大してきました。松江市においても、人口増加・高齢化に伴う脆弱性の増加や、自動車・電子機器の普及等に伴う影響の増加が考えられます。

松江市の人口は約1.2倍になりましたが、そのうち65歳以上の方の人口は約3.2倍に膨らんでいます。(合併前の周辺町村の人口を足して比較しています。)

また、医療施設の数約1.6倍、人工透析患者数は約1.2倍(H16との比較)、社会福祉施設数は約5倍に増加しています。

なお、平成23年の東日本大震災においては、人工透析患者が避難所生活によって、十分に透析を受けられなかったことが原因で死亡したと考えられる例が確認されています。

自動車の保有台数は約3万台から約15万台と約5倍になり、渋滞に伴う交通途絶(帰宅難民の発生)の影響も大きくなっています。

電力の使用も契約口数が約2倍に増えており、水道の約1.8倍とともにライフラインの機能停止の影響も拡大しています。

また、地下空間へ水が流れ込むことによる被害やATM(現金自動預け払い機)等の電子機器の水没に伴う影響など、新たな危険性も心配されます。



- 【出展】 ①② 国勢調査 ③ 県統計書  
④ 島根県健康福祉部 調べ ⑤ 松江市消防本部 調べ  
⑥⑦⑨ しまね統計情報データベース ⑧ 中国電力

## S47年とH18年との比較

戦後最大の被害をもたらした昭和47年洪水と近年発生した平成18年洪水を比較しました。

	S47年 (戦後最大の水害)	被害項目	H18年
大橋川上流部	昭和47年7月13日	発生日	平成18年7月19日
	356mm	総雨量(流域平均)	273mm
	2.36m	松江水位観測所水位	1.96m
	約70km <sup>2</sup>	浸水面積	約10km <sup>2</sup>
	約25,000戸	浸水戸数	約1,500戸
	12名	死者 <sup>※1</sup>	3名
	1週間	浸水期間	2日
	7,877 t	水害廃棄物(ゴミ)	254 t
	約36億円	被害額 <sup>※2</sup>	約17億円
松江駅前通り			

※1 数値は、「斐伊川流域+神戸川流域」のデータ、注釈なしの場合は「斐伊川流域」のデータ  
※2 建物・家庭用品・農作物などの一般資産、河川・道路などの公共土木施設、電力会社などの公益事業等への被害

住友生命ビル前